

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年1月25日

事業所名 多機能型事業所ホープみさかえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・4クラスに分けて活動を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		・人員基準は満たしている。また、利用人数等に対して職員を加配するなどしている。	・よりよい療育を行うため職員を増員したい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		・開放的で過ごしやすい空間になっている。情報伝達においては集中できる環境配慮や特性に応じて伝達方法を工夫している。	・テラスと園庭に段差があるため改善を図りたい。 ・身障者用トイレがせまく感じることがある。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・朝礼後に前日の振り返りを行っている。	・職員すべてに浸透していると言いがたいため、全員が共通認識出来るように工夫したい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		・本年度より実施
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		・本年度より実施
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・外部評価においては今後、検討をする。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・施設内外の研修に参加しやすい環境である。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・保護者からの様子の聞き取り、各学校との連携により計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・アセスメントシートを活用し、実際の状況を確認している。また他機関との連携で状況把握を行っている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・会議等で職員の意見を出し合っている。	・職員全員がもっと意見を出合い、個々にあった活動プログラムを作成し、実行できるようにしたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・個々に合わせた活動を変化させながら提供している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		・個々に合わせた活動量を設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		・個々の課題や状況に応じて組み合わせている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・支援前に各クラスごとの確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・翌日の朝に振り返りの場を設けて情報共有等を行っている。	

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・その都度、記録を取り、情報を共有することで支援に活かせるようにしている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		・必要に応じて見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○			・地域交流を強化を図って行きたい。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・児童発達支援管理責任者や担当職員が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		・迅速に対応している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		・必要に応じて連絡体制を整えている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		・保護者に同意を得たうえで情報共有と相互理解に努めている。	・情報共有が職員すべてに伝わり、理解しているか分からない部分もあるため、全員が共通認識出来るように工夫したい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		・保護者に同意を得たうえで提供を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・研修会・定例会等で行っている。	・連携の結果が職員すべてに伝わり、理解しているか分からない部分もあるため、全員が共通認識出来るように工夫したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		・南さつま市内の小学校に通学している児童もいる。園外学習等で会った場合、交流を図らせたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		・市の自立支援協議会子ども部会に参加し、連携を図っている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・利用時は必ず連絡帳等で情報を提供し、相互理解できるようにしている。	・職員すべてに浸透していると言いがたいため、全員が共通認識出来るように工夫したい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		・現在、家族支援を担ううえで研修に参加しているため、今後、研修の結果を活かしたい。
保護者への説明責任	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・利用契約時に説明をし、同意を得ている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・送迎時や連絡帳等で相談があった場合は助言を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		・今後は親子活動の機会や保護者会も検討する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・迅速に対応できるように心がけている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・連絡ノートで活動の記録等(写真を添付する時もある。)を伝えるだけでなく、月1回のクラスだよりを発行し、情報を発信している。	

寺	35	個人情報に十分注意している	○		・細心の注意を払っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・具体的な話をする事でイメージを持ちやすくするなどの配慮をしている。	・職員すべてに浸透していると言いがたいので、全員が共通認識出来るように工夫したい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・夏祭り、クリスマス会等を開催している。	・事業の理解を深めてもらうために事業所のアピールに力を入れたい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		・マニュアルの作成等はされている。	・発生想定訓練が出来ていないところもあることため、今後は定期的を実施する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			・訓練が出来ていない月があった。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・施設内外研修等の機会を設けている。また研修に参加できる機会の確保を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		・身体拘束を行わないよう、様々な対応で解決策を探っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・保護者からの情報提供により対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・施設内研修等で事例の共有や対応策を検討している。	